

自己点検書

2023年度

芝浦工業大学 土木工学科

Civil Engineering

提出日 2023 年 11 月 18 日

記入上の注意

- 白色の欄にのみ記入してください。着色のある欄には記入しないでください。
- 「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を高い水準で満たしている
 - ：認定基準の要求事項を満たしており、適合の度合いを高めるための取り組みを行っている
 - △：認定基準の要求事項を満たしているが、改善の余地がある
- 「基準への適合状況の説明」欄に、進行中の改善の取り組みがあれば、その内容も含めて説明を簡潔に記入してください。
- 「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「[C]：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更

- 「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又は Web ページの URL を記入してください。
- 添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
- なお、整理番号は、添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：Txx と Jxx）。
- この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表 5 及び表 6 の一覧表を作成してください。
- Web ページで公開されているものについては URL を記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明（進行中の改善の取り組みを含む）	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	学習・教育到達目標の設定と公開				
1.1	【自立した技術者像の設定と公開・周知】 プログラムは、育成しようとする自立した技術者像を公開し、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この技術者像は、技術者に対する社会の要求や学生の要望に配慮の上、プログラムの伝統、資源、及び修了生の活躍が想定される分野等を考慮して定められていること。	◎	当プログラムにより育成しようとする「自立した技術者像」は、創立以来の実学志向の建学理念に基づいており、大学・学部・学科のそれぞれのレベルにおいて、アドミッションポリシーとディプロマポリシーが定められている。学科のアドミッションポリシーとディプロマポリシーは、『社会科学をとり込み社会基盤システムの創造を担う学生を育む』を教育目標としている。アドミッションポリシーとディプロマポリシー、および学修・教育到達目標とカリキュラムの関連は、大学 Web ページや学科 Web ページ、学科パンフレットなどで、プログラムに関わる教員及び学生だけでなく、保護者や高校生、就職先となる企業などにも公開している。また、年度初めに行われる新入生ガイダンスにおいて、新入生全員に冊子「芝浦工業大学 JABEE への取り組み」と「土木工学科 JABEE 説明資料」が配布され、技術者像とともに、教育理念や学修・教育到達目標、教育方法などの周知が 2011 年 4 月以降、2020年度まで行われている。2021年4月以降の入学生は非JABEE学生としたため、「芝浦工業大学 JABEE への取り組み」と「土木工学科 JABEE 説明資料」を用いた冊子による配布周知は2021 年 4 月以降は行っていない。当プログラムの内容は、学科全教員で周知・確認し、さらに非常勤講師報告会において非常勤講師にも周知している。 具体的な技術者像は、技術者に対する社会の要求や学生の要望に配慮の上、プログラムの伝統、資源、及び修了生の活躍が想定される分野等を考慮して定められている。土木は、社会インフラ整備および国民の安全・安心を守ることが重要である。この考えにもとづき、当プログラムは、社会基盤システムの創造が可能な技術者育成を目指している。学生、保護者、卒業生、就職先などからの要望を学生面談や父母懇談会、就職採用に関連するクラス担任と企業との面談などを通して十分に反映し、土木の広い分野に対応し、高い水準を持った技術者像となっており、その結果として、業界からの求人数が非常に多い状況が続いている。具体的な就職先は、公務員や民間発注者、建設会社、コンサルタントなど、土木業界全般にわたるが、この広い範囲に関して、学科のアドミッションポリシーとディプロマポリシーで定める「自立した技術者像」はカバーしている。当学科は、2019 年度は専任教員 16 名（教授 13 名、准教授 3 名）で 16 の研究室を、2020 年度は専任教員 18 名（教授 13 名、准教授 4名、助教1名）で17 の研究室を、2021年度は専任教員 18 名（教授 13 名、准教授 5名）で18 の研究室を、2022年度は専任教員 18 名（教授 15 名、准教授 3名）で18 の研究室を運営しており、設備として実験室・ゼミ室・測量実習室などを保有している。この資源に関する制約の中で、実現性の高いプログラムとなっている。具体的な「自立した技術者像」は、学内における講義や就職活動・学内における就職活動支援、企業などとの連携講義、オープンキャンパス、非常勤講師報告会などを通し、共通認識が常に確認・更新されている。		芝浦工業大学 大学のアドミッションポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/admission_policy.html 芝浦工業大学 ディプロマポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/policy.html 芝浦工業大学 工学部 https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/ 土木工学科 Web ページ 教育目標とカリキュラム https://www.db.shibaura-it.ac.jp/education.html T2-1-1 学修・教育到達目標の達成度の評価基準と総合的評価方法T2-1-2 学修・教育到達目標対応表（専門科目・共通科目）土木工学科 芝浦工業大学 https://www.shibaura-it.ac.jp/ 土木工学科 Web ページ https://www.db.shibaura-it.ac.jp/index.html 学科パンフレット https://www.db.shibaura-it.ac.jp/download/Shibaura_CivilEng_pamphlet2020_web.pdf J4-1-4 芝浦工業大学 JABEE への取り組み T2-3-2 土木工学科学生 JABEE 説明資料 T2-3-3 非常勤講師懇親会報告会資料 土木工学科 Web ページ 育成する人材像 https://www.db.shibaura-it.ac.jp/education.html T2-5-4 成績不振者リスト T2-5-5 土木工学科新 3 年生進路希望調査と面談予定表 T2-5-5a 2019_3 年生ガイダンス資料 T2-5-5b 2019_3 年生向け企業研究会 T2-3-4 父母懇談会プログラムおよび実施報告 T3-1-4 土木工学科教員変遷 T.J4-2-3 CAMPUS DIARY キャンパス案内図 J4-1-12 土木キャリアセミナー（土木工学セミナー） スケジュール表 J4-1-5 埼玉県連携講義 芝浦工業大学 オープンキャンパス https://admissions.shibaura-it.ac.jp/oc-special/ T1-1-2 カリキュラム変更

1.2	【学習・教育到達目標の設定と公開・周知】 プログラムは、プログラム修了生全員がプログラム修了時に確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標を定め、公開し、かつ、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この学習・教育到達目標は、自立した技術者像(認定基準 1.1)への標（しるべ）となっており、下記の知識・能力観点(a)～(i)を水準を含めて具体化したものを含み、かつ、これら知識・能力観点に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。 (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解 (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力 (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 (g) 自主的、継続的に学習する能力 (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 (i) チームで仕事をするための能力	◎	プログラムの育成しようとする技術者像を定めているアドミッションポリシーとディプロマポリシーに照らして、身につけておくべき知識・能力から、学修・教育到達目標を表 1「学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応」に示すように設定している。 設定した学修・教育到達目標は 2011 年 4 月 1 日より学科 Web ページ上に公開した。また、工学部教育プログラム自己点検委員会が「芝浦工業大学 JABEE への取り組み」という冊子を作成し、学内関係教職員や学生に配布している。2011 年 4 月以降は、年度初めに行われる新入生ガイダンスにおいて、冊子「芝浦工業大学 JABEE への取り組み」と「土木工学科 JABEE 説明資料」を全員に配布・説明を行い、内容を周知している。2021年4月以降の入学生は非JABEE学生としたため、「芝浦工業大学 JABEE への取り組み」と「土木工学科 JABEE 説明資料」を用いた冊子による配布周知は2021 年 4 月以降は行っていない。年度終了時には必要に応じて見直しを行い、学科全教員に周知している。非常勤講師には年度初めに関連資料を送り周知するとともに、毎年度末もしくは年度初めに開催する非常勤講師報告会で説明を行っている。さらに専任教員には、教員ハンドブックにて毎年度周知をしている。 プログラム修了生全員がプログラム修了時に確実に身につけておくべき知識・能力別には、下記に示す通りである。 (a)学修・教育到達目標 A (A-1,A-2) の知識・能力の育成により達成する。表 1 と添付資料に示すように、具体的には「環境の科学」などで育成する。評価基準：技術者として、国内外において、人類のさまざまな文化、社会と自然に関する知識があり、それらの特徴を理解できるとともに、それに基づいて、自らの行動を適切に理解し、状況を整理・分析できる。 (b)学修・教育到達目標 B の知識・能力の育成により達成する。添付資料表1 と添付資料に示すように、具体的には「技術者の倫理」で育成する。評価基準：技術者として、当該分野の技術が公共の福祉に与える影響・当該分野の技術が生み出す環境保全と社会の持続ある発展への関与・技術者が持つべき倫理と責任に対し、理解するとともに、上記の理解に基づいて、当該分野の技術者として実務を行う際に必要となる最低限の知財・法律・企業活動の実務に関する知識を有し、社会の実相を反映したモデル問題について状況を分析でき、自らの行動を認識できる。 (c)学修・教育到達目標 C,D,F の知識・能力の育成により達成する。表 1 と添付資料に示すように、具体的には、C では「数理基礎科目（数学科目）」など、D では「流れの力学」などで育成する。評価基準：当該分野に必要な数学及び自然科学に関する知識を有し、上記の知識を組み合わせることも含め、技術者として当該分野の問題解決のために上記の知識を応用でき、その問題を分析できる。 (d)学修・教育到達目標 C,D,E,F,G,H の知識・能力の育成により達成する。表 1 と添付資料に示すように、具体的には、C では「土木解析学」など、D では「環境の工学」など、E では「土木実験 1・2」、F では「土木設計演習 1・2」、G では「土木総合講義」など、H では「土木工学セミナー」で育成する。評価基準：当該分野において必要とされる専門的知識を有し、これらの知識を組み合わせ、当該分野の問題解決にハード面（tangible）とソフト面（intangible）で必要となるツールを利用できる能力を有し、これらを利用して、技術者として当該分野の問題を分析できる。 (e)学修・教育到達目標 F,G,H の知識・能力の育成により達成する。表 1 と添付資料に示すように、具体的には、基礎的レベルである「土木情報処理」などで育成し、よりレベルの高い創造レベルでは「卒業研究1・2」によることにしている。評価基準：社会の実相を反映したモデル問題に対して、技術者としての問題解決を行うために、解決すべき問題を認識し、公共の福祉・環境保全・経済性などの考慮すべき制約条件を特定し、解決すべき課題を論理的に特定・整理・分析し、課題の解決に必要な数学・自然科学・該当する分野の科学技術に関する系統的知識を適用することができる。さらに種々の制約条件を考慮して、解決に向けた具体的な方針を立案し、複数の解の中から最適解を選定し、立案した方針に従って、モデル問題の創造的解決を図ることができる。	設問に回答するための修正	表 1 学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応土木工学科 Web ページ https://www.db.shibaura-it.ac.jp/index.html J4-1-4 芝浦工業大学 JABEE への取り組み T2-3-2 土木工学科学生 JABEE 説明資料 T2-3-3 非常勤講師懇親会報告会資料 T,J4-2-4 教員ハンドブック 表 2 学修・教育到達目標とその評価方法及び評価基準
-----	--	---	---	--------------	--

		(f)学修・教育到達目標 L,J,K の知識・能力の育成により達成する。表 1 と添付資料に示すように、具体的には「英語科目」「導入ゼミナール」「土木ゼミナール」「卒業研究1・2」で育成する。評価基準：自らの意見を論理的に整理し、関連する情報と共に他者に伝え、また他者の発信した情報や意見を理解できる。さらに英語等の外国語でやり取りができ、社会の実相を反映したモデル問題に対して業務遂行できる。 (g)学修・教育到達目標 G,I,J の知識・能力の育成により達成する。表 1 と添付資料に示すように、具体的には「卒業研究1・2」などで育成する。評価基準：将来にわたり技術者として活躍していくための継続的研鑽の必要性を理解し、必要な情報や知識を獲得する方法の知識があり、意欲的に実行できる。 (h)学修・教育到達目標 J,K の知識・能力の育成により達成する。表 1 と添付資料に示すように、具体的には「卒業研究1・2」などで育成する。評価基準： 社会の実装を反映したモデル問題に対して、時間、費用を含む与えられた制約下で計画的に仕事を進め、計画の進捗を分析し、必要に応じて計画を修正でき、モデル問題の目標を達成できる。 (i)学修・教育到達目標 E,F,J,K の知識・能力の育成により達成する。表 1 と添付資料に示すように、具体的には「土木実験 1・2」などで育成する。評価基準：社会の実相を反映したモデル問題に対して、他者と協働する際に、自己のなすべき行動を的確に判断・実行し、他者と協働する際に、他者のとるべき行動を判断し、他者に働きかけることができる。 学修・教育到達目標 A～K に授業科目が対応しており、学科として到達水準を設定した。各科目の単位取得については表 2 およびシラバスに明記された達成目標および評価方法と基準に従って評価した結果、合格であれば単位が与えられる。また、各学修・教育到達目標に対応する科目群には卒業までに必ず修得する必要がある必修科目が含まれており、最低限必要な水準が達成できる。		
--	--	---	--	--

2	教育手段				
2.1	【カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示】 プログラムは、公開されている教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づく教育課程(カリキュラム)において、各学習・教育到達目標に関する達成度評価の方法及び基準、ならびに、科目ごとの学習・教育到達目標との対応、学習・教育内容、到達目標、評価方法、及び評価基準、を定め、授業計画書(シラバス)等によりプログラムに関わる教員及び学生に開示していること。 なお、教育内容に関する必須事項を、必要に応じて個別基準で定める。	◎	「教育課程編成・実施の内容の方針(カリキュラムポリシー)」は次のとおりである。まず、表 3 および表 4 に示すように、技術者に必要な能力の養成を目的とし、学修・教育到達目標を達成するために必要な授業科目を配置している。科目を力学・防災・計画・情報・環境系に分類し、低学年では主に土木工学の基礎的素養の習得を、高学年では講義や実験、演習を通し社会の実課題に関わる技術、知識の習得を目指して体系的に科目を配置し、学生各自の進路・方向性を意識できるカリキュラム設計としている。教員は次年度のカリキュラムの検討を 6 月～12 月にかけて学科会議(JABEEに関する内容の審議含む)で議論し、相互理解を図っている。また、数理基礎科目や言語科目、情報科目、人文社会系教養科目、体育健康科目の分野別要件も必修化している。学修・教育到達目標に対するカリキュラムにおける各科目との対応関係は、表 1～表 4 および添付資料で明瞭に示している。このように、当プログラムは、公開されているカリキュラムポリシーに基づくカリキュラムにおいて、各学修・教育到達目標に関する達成度評価の方法および基準、ならびに、科目ごとの学修・教育到達目標との対応、学修・教育内容、到達目標、評価方法、及び評価基準、を定めている。 「授業計画書(シラバス)等による教員・学生への情報開示」は次のとおりである。まず、1 年生には、新入生オリエンテーションにおいて、カリキュラム構成等を含む学修に関する説明がまとめられた「学修の手引」および「土木工学科 JABEE 説明資料」を配布している。(2021年4月以降の入学生は非JABEE学生としたため、「芝浦工業大学 JABEE への取り組み」と「土木工学科 JABEE 説明資料」を用いた冊子による配布周知は2021 年 4 月以降は行っていない。) 4 年生には、年度開始時の学科ガイダンスにおいて「土木工学科 JABEE 説明資料」を配布し、カリキュラム構成等を詳細に解説している。次に、常にかリキュラムを学生が確認できるよう、土木工学科 Web ページにかリキュラムポリシー等の情報を掲載するとともに、各科目の開講状況を「時間割検索システム」および「シラバス検索システム」で開示している。各科目のシラバスには、授業の概要、達成目標、各回の授業計画、授業時間外課題、評価方法と基準、教科書・参考書、履修登録前の準備、学修・教育到達目標との対応、オフィスアワー、ならびに、質問・相談の方法を記載している。このように、当プログラムは、公開されているカリキュラムポリシーに基づくカリキュラムにおいて定められた、各学修・教育到達目標に関する達成度評価の方法および基準、ならびに、科目ごとの学修・教育到達目標との対応、学修・教育内容、到達目標、評価方法、及び評価基準、をシラバス等によりプログラムに関わる教員及び学生に開示している。	JABEE プログラムの観点ではカリキュラムについては大きな影響および変更はないが、学科の活動においては前回受審時からの変更が 3 点ある。1 つめは教員数の増加である。2019 年度から、学内の共通・教職科目教員(一般教養・教職系教員) 5 名が土木工学科に配置されている。当該教員は「卒業研究」以外の専門系必修科目を分担していないため、JABEE プログラムの観点では、「卒業研究」以外の科目群については、カリキュラムに変更なしとみなせる。2 つめは「卒業研究(4 単位)」の「卒業研究 1(4 単位)」・「卒業研究 2(8 単位)」へ分割および単位数変更、ならびに、分担教員数の増員である。「卒業研究」と「卒業研究 1」・「卒業研究 2」の評価方法に変更はない。さらに、「卒業研究」以外においては、卒業に必要な必修科目数の変更はない。そのため、「卒業研究」についても JABEE プログラムの観点ではカリキュラムに変更なしとみなせる。3 つめは土木工学科のコース統合(社会システムデザインコースの廃止)である。土木工学科は、社会基盤コース(JABEE コース)と社会システムデザインコース(非 JABEE コース)で構成されていたが、2019 年度より社会システムデザインコースを廃止し、社会基盤コースへ統合している。これに伴い、社会基盤コースにおける選択必修科目の区分名称を必修科目へ変更している。選択必修科目という区分名称は、社会基盤コースのカリキュラム上では、実質的に必修科目である。そのため、選択必修科目から必修科目への区分名称については、JABEE プログラムの観点ではカリキュラムに変更なしとみなせる。	表 1 学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応 表 2 学修・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 表 3 学修・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明 表 4 学修・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ 芝浦工業大学 学修の手引 https://www.shibaura-it.ac.jp/visitor/student/class.html T,J4-2-1 学修の手引 T2-3-2 土木工学科学生 JABEE 説明資料 土木工学科 Web ページ https://www.db.shibaura-it.ac.jp/index.html 芝浦工業大学 時間割検索システム https://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/ 芝浦工業大学 シラバス検索システム https://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ T1-1-1 JABEE 試行開始後変更追加一覧

2.2	【シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習の促進】 プログラムは、シラバス等に基づいて教育を実施し、カリキュラムを運営していること。カリキュラムの運営にあたり、プログラムは、履修生に対して学習・教育到達目標に対する自身の達成度を継続的に点検・反映することを含む、主体的な学習を促す取り組みを実施していること。	◎	各教員は担当科目のシラバスとの対応を確認しながら、適切な講義の実施による教育に努めている。また、講義の事実・内容を記録し、休講した際は必ず補講（授業のオンデマンド視聴含む）などの措置を行うことで、シラバスに従った教育を実施している。当該年度の休講と補講（授業のオンデマンド視聴含む）については、大学 Web ページにある休講情報や補講情報の検索システムにより公開している。卒業研究については、その実施と評価に関する規程を作成し、概要・本文の提出・発表の実施を確認し、さらに卒業研究従事時間数を確認した上で、評価を行っている。 学生の自己学修時間を確保するため、CAP 制度にもとづき、年間 49 単位、半期 25 単位（2016 年度までは、年間 48 単位、半期 24 単位）の履修を原則として指導を行っている。また、シラバスには、(1)予習・復習等の授業時間外課題の内容と必要学修時間の明記、(2)実習や実験・演習科目などにおける提出課題の明記を行っている。この他、PC 教室の利用時間への配慮、図書館の試験期間中及び日曜日の開放、および、自習室・ゼミ室・就職資料室・測量準備室の設置など、学生の学修意欲を満足させるための設備を充実させている。また、学修のポータルサイト（ScombZ）やポートフォリオを確認できるシステム（SIT Portfolio）が構築された。これにより、学生は PC やスマートフォンから各自の単位取得履歴、GPA 取得履歴、学科順位推移、TOEIC スコア、出欠状況などが確認でき、自己点検、啓発ができる環境が整えられた。土木工学科でもクラス担任制度を導入し、個別対応を実施している。 成績不振者に対してはクラス担任が個別面談を行い、学修・履修指導を行っている。また芝浦学生応援ツール（S*gsot）から、通常の成績とは別に作成した学修・教育到達目標の達成度（JABEE 達成表）を確認できる。大学組織としては、教育イノベーション推進センター、キャリアサポート課、学術情報センターが設置され、学修支援体制を構築済みである。	学修のポートフォリオを確認できるシステム（S*gsot Portfolio）が追加された。 各科目のシラバスに授業時間外課題（予習および復習を含む）が追記された。	芝浦工業大学 シラバス検索システム https://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ J4-1-1 授業証拠書類 一式 T,J4-2-2 授業実施記録 芝浦工業大学 在学生 https://www.shibaura-it.ac.jp/visitor/student/ T2-2-2 卒業研究に関する研究室ごとのスケジュールと方針 J4-1-3 卒業研究論文（上位と下位） T2-2-3 卒業研究従事時間数の調査 T2-2-3a 卒業研究従事時間表（出席帳のテンプレート） J4-1-2 卒業研究従事時間 一式 芝浦工業大学 学修の手引 https://www.shibaura-it.ac.jp/visitor/student/class.html T,J4-2-1 学修の手引 T,J4-2-3 CAMPUS DIARY キャンパス案内図 芝浦工業大学 キャリアサポート https://www.shibaura-it.ac.jp/career_support/summary/ 芝浦工業大学 図書館 https://lib.shibaura-it.ac.jp/ 芝浦工業大学 学術情報センター https://web.sic.shibaura-it.ac.jp/ 土木工学科 ゼミ室予約システム https://www.r326.com/b/main.aspx?id=dobokuroomreservation 芝浦工業大学 ScombZ https://scombz.shibaura-it.ac.jp/login 芝浦工業大学 S*gsot https://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/pf.html T2-5-6 学修指導マニュアル T2-5-7 工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 T2-5-4 成績不振者リスト T2-3-1 新入生ガイダンス資料 T2-5-5 土木工学科新 3 年生進路希望調査と面談予定表 T2-5-5a 2019_3 年生ガイダンス資料 T2-5-5b 2019_3 年生向け企業研究会 J4-1-6 土木工学科 学修・教育到達目標配布カード（教員・学生用） J4-1-10 2018 年度 4 年生の JABEE 達成表 J4-1-11 2019 年度 4 年生の JABEE 達成表 T2-4-5 S*gsot 画面 JABEE 達成表例T2-4-5a S*gsot 画面(学生閲覧画面) T2-4-5b TALENT_教員閲覧画面 T2-4-5c ScombZ 画面(学生閲覧画面) T2-4-5d ScombZ 教員閲覧画面 T2-4-5e Sit Portfolio(学生閲覧画面) 芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/organization/center/ 芝浦工業大学 キャリアサポート課 https://www.shibaura-it.ac.jp/career_support/summary/
-----	--	---	---	---	--

2.3	【教員団、教育支援体制の整備と教育の実施】 プログラムは、上記 2.1 項、2.2 項で定めたカリキュラムに基づく教育を適切に実施するための教員団及び教育支援体制を整備していること。この教育支援体制には、科目間の連携を図ってカリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組み、及び、教員の教育に関する活動を評価した上で質的向上を図る仕組みを含むこと。加えて、プログラムは関係する教員にその体制を開示していること。なお、教員団及び教育支援体制に関する勘案事項を必要に応じて個別基準で定める。	◎	2019 年度以降は共通科目の教員が各学科に所属する形になり、2022年度、土木工学科は専任の教授 15 名、准教授 3名で構成している。 非常勤講師は、通年講義で 3 名程度、半期講義のみで 9 名程度であり、教員団の体制は十分である。教育支援体制としては、クラス担任制をベースに、①学科主任を核とした意思決定と教員間の情報共有およびJABEE 組織の体制づくり、②研究室や実験室など設備整備、③学生の基礎学力強化への支援、④特別講師の招聘などを展開している。また学生の履修状況や授業出席状況も学内システム（ScombZ, S*gsot および TALENT）により参照できる。さらに、TA と教育的アルバイトも配置し、教育支援体制は十分である。 科目間の連携を図ってカリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組み、及び、教員の教育に関する活動を評価した上で質的向上を図る仕組みは、下記のように整備されている。学科内においては、教員間ネットワークを組織し、(1)土木計画系 (2) 土木環境系・空間情報系 (3) 水工系 (4) 地盤系 (5) 防災系 (6) 構造・材料系の 6 つの分科会によりカリキュラムの検討や教育効果向上の議論をする。また、すべての分科会を集約して JABEE 会議で議論する。工学部においては、教授会、主任会議、教務委員会、教育プログラム自己点検委員会があり、学科から 1 名以上の委員を出して、連携をとっている。工学部におけるネットワークはそれぞれ毎月 1 回ほど(教育プログラム自己点検委員会は年 2 回) のペースで開催されている。学科内における教員間ネットワークにおいてカリキュラム変更に関する議論や教育効果向上のための施策の議論を実施している。全学として、FD 委員会があり、学内外の講師を招いて講演会を実施している。また、教育イノベーション推進センターニュースレターが発行され、教授会での配布とともに、大学 Web ページ上で公開されている。さらに、研究推進室による競争的資金、共同研究、知財、コンプライアンス等に関する説明会が定期的に開催されている。教職員行動規範にもとづく、教員の指導と倫理規程は、教員に配布される教員ハンドブック、および、学修指導マニュアルでも周知されている。工学部では、工学教育プログラムの検証と開発を行うと共に、授業の改善と教育上の問題点の探索のため、全科目に対し学生による授業アンケートを実施している。授業アンケートは、集計結果に担当教員のコメントを付した内容を、大学 Web ページを利用して学内に限定して開示している。授業アンケートは授業改善だけでなく、カリキュラムの傾向把握や改善のための利用となるように、学生による授業評価、授業評価した学生への教員コメント欄などを利用したフィードバック、教員による相互評価、卒業生による評価などを取り入れ、授業改善に役立てている。学科では、教育改善委員会により学科内における活動内容を、学科全教員に電子メールで配信し、随時学科会議および JABEE 会議にて報告しているとともに、JABEE 会議で教育方法や設備改善などの FD 活動の提案と実施を行っている。年度初めには全学 FD・SD 講演会が開催され、同会では本学教育賞の表彰も行われている。また、私立大学連盟主催の FD 研修会への参加や教育賞への応募を行っている。優秀な教育実績を挙げ、学生に大きな刺激を与えた教員に対し、優秀教育教員として顕彰している。受賞者は、全学 FD・SD 講演会にて表彰と授業内容のプレゼンテーションを行い、教育に関するベストプラクティスの共有をしている。さらに、教員個々人が、教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献について、年度始めに達成目標設定と活動計画作成を行い、年度末に達成度および改善点の評価で構成された自己評価を実施している。教員データベースや業績システムには詳細なデータを記入しており、教員資格審査は 5 年ごとに再審査を受けなければならない。再審査項目は①教育業績、②研究業績、③大学運営、④学会・社会活動などである。教育・研究等業績評価の実施状況や教育・研究活動、大学運営などの各種情報は、大学 WEB 教員データベースで公表されている。また、教員資格の職能要件に基づく再審査および昇格に関わる審査の各結果は、学科主任を通して本人に連絡される。		T3-1-4 土木工学科教員変遷T3-1-6 非常勤講師一覧表T3-1-1 学科規則 T3-4-4 芝浦工業大学ティーチング・アシスタント規程T3-4-5 芝浦工業大学スチューデント・アシスタント規程T3-1-3 教員間カリキュラム検討ネットワーク議事録 T3-1-2 学科会議議事録 (JABEE 会議議事録統合) T3-1-5 土木工学科人事 T3-1-5a 土木工学科教員の学位・資格一覧(2020 年度) T3-2-1 工学部教授会規則 T3-2-2 教授会議事録 T3-2-3 工学部主任会議内規 芝浦工業大学 工学部教育開発本部 (学部 の FD 活動) https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/faculty_development/ 教育イノベーション推進センターニュースレター http://edudvp.shibaura-it.ac.jp/leaflet/newsletter-backnumber/ 芝浦工業大学 https://www.shibaura-it.ac.jp/ T3-3-5 全学 FD・SD 講演会 T3-2-6 教学経営審議会 T3-4-6 教職員行動規範 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/compliance/conduct_staff.html T,J4-2-4 教員ハンドブックT2-5-6 学修指導マニュアルT2-4-7 授業アンケート 概要 T2-4-7a 資料 1_授業アンケート 2018-2019 (前期のみ) T2-4-7b 資料 2,3_授業アンケート 2018-2019_データシートT2-4-7c 資料 4_9 科目の時系列分析 T2-4-7d 資料 5_自己評価授業アンケートの実施について T2-4-7e 資料 6_自己評価授業アンケート実施に伴う学生の学びの振り返りの徹底について T2-4-7f 資料 7_学生による自己評価授業アンケート(教員ハンドブック 2020) T2-4-7g 資料 8_自己評価授業アンケート回答画面プレビューT3-4-1 芝浦工業大学優秀教育教員顕彰規程 土木工学科 Web ページ https://www.db.shibaura-it.ac.jp/index.html T3-1-7 教育・研究等業績評価シート (目標計画書・自己評価書) T3-4-2 芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程芝浦工業大学 教員データベースhttps://resea.shibaura-it.ac.jp/ T3-4-3 教員資格審査規程 T3-4-3a 工学部教員資格審査委員会規程
-----	--	---	---	--	--

2.4	【アドミッション・ポリシーとそれに基づく学生の受け入れ】 プログラムは、カリキュラムに基づく教育に必要な資質を持った学生をプログラムに受け入れるために定めた受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を公開し、かつ、同方針に基づいて学生を受け入れていること。	◎	学科のアドミッションポリシーを開示し、その理念を理解した上での出願を期待している。 入試関連の主な年度計画は次のとおりである。①各学科から入試についてのアンケート・要望：4 月、②基本方針・一般入試提案：5 月、③指定高校および併設高校の推薦入試提案：6、7 月、④外国人・帰国生徒特別入試：1 月、⑤一般入試（前期日程・共通テスト利用・後期日程）：1～2 月、⑥学士・編入試験：3 月、⑦合否判定会議による合格者決定 なお、入学選抜については次の 6 とおりの方法にて学内外へ公開している。 ①文部科学省への報告（これにより文部科学省より全国主要機関への公開をしている）、②入試ガイド（要項概要）の配布、③入試要項の配布、④大学 Web ページへの掲載、⑤主要受験雑誌・主要新聞への掲載、⑥指定校等への直接通知等。またオープンキャンパスでは参加者に入学情報を提供している。さらに、具体的な選抜方法は次のようにしている。①前期一般（3 教科）、②全学統一般（3 教科）、③後期一般（3 教科）、④共通テスト利用方式（4 教科）、⑤指定校推薦、⑥併設高校推薦、⑦外国人・帰国生徒特別（若干名）。学科の 1 年～4 年次生の定員数の 1.00 倍以内になるよう、毎年度入学生数を点検している。 「芝浦工業大学編入学規程」に基づいて編入学試験（数学，理科「物理・化学いずれかを選択」、英語の筆記試験および面接）を実施し、合格者に対し編入が許可される。編入学者の単位振替認定に関しては、学外単位等認定制度規程に基づき単位の評価・認定を行う。このとき学科において、編入元の学科が JABEE に基づいているか点検をしたうえで単位認定を行う（2022年度においては未実施）。大学 Web ページに掲載されている「編入学試験」の案内に「募集学科・試験内容」「出願資格」「入試日程」が開示されている。	編入試験の項目を追記 2017 年度データ更新	土木工学科 Web ページ 教育目標とカリキュラム https://www.db.shibaura-it.ac.jp/education.html T3-5-1 芝浦工業大学学部合否判定会議内規 T3-5-2 一般入試要項 T3-5-2a 指定校推薦入試要項 T3-5-2b 指定校推薦入試要項_高校別T3-5-2c 併設校推薦入試要項(1 月) T3-5-2d 併設校推薦入試要項(3 月) T3-5-2e 併設校推薦入試要項(9 月) T3-5-2f 帰国生徒特別入試要項 T3-5-2g 外国人特別入試要項 T3-5-2h 公募制推薦入試（女子）要項T3-5-3 2015-2020_土木工学科出願者数T3-5-4 芝浦工業大学編入学規程 T3-5-5 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 T3-5-6 芝浦工業大学転部及び転科規程 T3-5-6a 転部及び転科規程運営内規 T3-5-6b 土木工学科転科・転部・編入学・学士入学およびこれに伴う単位認定 T3-5-7 2018-2020_編入学者リスト T3-5-8 編入学単位認定表 T3-5-9 土木工学科留学生受入れ実績 芝浦工業大学 入学案内 https://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/ 芝浦工業大学 編入学者選抜 https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/transfer.html 芝浦工業大学 学士入学者選抜 https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/bachelor.html 土木工学科 Web ページ https://www.db.shibaura-it.ac.jp/index.html T2-4-3 土木工学科内コース変更、転コース申請 T2-4-3a 土木工学科内コース変更 T2-4-3b 転コース書類
-----	--	---	--	----------------------------	--

2.5	【教育環境及び学習支援環境の運用と開示】 プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、教育の実施及び履修生の学習支援のために必要な施設、設備、体制を保有し、それを維持・運用・更新するために必要な取り組みを行っていること。その取り組みをプログラムに関わる教員、教育支援体制の構成員、及び履修生に開示していること。	◎	本学のキャンパスは、①豊洲キャンパス、②大宮キャンパスである。校地面積は約 300,400 m²、校舎面積は 78,212.2 m²であり、いずれも大学設置基準を超えている。図書館、パソコン室や学術情報センターなどの情報関連施設も充実し、食堂などの学生厚生施設も完備している。学科管理としては、2022 年度は 18研究室・4 実験室・ゼミ室・自習室・会議室・測量実習室および準備室がある。教員全員のオフィスアワーの設定を行うとともに、学年担任による学生面談について学科会議で議論し、学科規則に定めている。また大学による支援の仕組みとして、学習サポート室・総合的な学生サービスを展開する学生センター・専門カウンセラーが適切なアドバイスをを行う学生相談室の設置を行っている。また、学生による全科目の授業アンケート、ハラスメント防止委員会の設置・外部機関を利用する電話カウンセリングによってサポートしている。学生支援に関しては、「新入生ガイダンス資料」などを学生に明示するとともに、「CAMPUS DIARY」および大学 Web ページ上で情報提供している。この他、健康相談室実施ガイダンス（メンタルヘルス講義）を健康相談室で実施しており、窓口を大学 Web ページ上で公開している。授業アンケート結果は、学生を含めた学部構成員全般に大学 Web ページ上で公開している。	基底科目の廃止、土木分野の入門レベルをカバーする共通科目（化学）の新規設置	T,J4-2-3 CAMPUS DIARY キャンパス案内図 芝浦工業大学 キャンパス・施設紹介 https://www.shibaura-it.ac.jp/educational_foundation/facility/toyosu_campus.html T3-6-1~3 消費収支推移, 財務比率推移, 科学研究費取得状況（事業報告書より） 芝浦工業大学 シラバス検索システムhttps://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ T3-1-1 学科規則 T,J4-2-1 学修の手引 T2-5-3 学習サポート室の利用状況 T2-5-8 学生センター T2-5-2 学生相談室のご案内芝浦工業大学 学生相談室 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/campus_life/counseling.html T2-5-1 新入生メンタルヘルスガイダンス T2-4-7 授業アンケート 概要 T2-4-7a 資料 1_授業アンケート 2018-2019（前期のみ） T2-4-7b 資料 2,3_授業アンケート 2018-2019_データシートT2-4-7c 資料 4_9 科目の時系列分析 T2-4-7d 資料 5_自己評価授業アンケートの実施について T2-4-7e 資料 6_自己評価授業アンケート実施に伴う学生の学びの振り返りの徹底について T2-4-7f 資料 7_学生による自己評価授業アンケート(教員ハンドブック 2020) T2-4-7g 資料 8_自己評価授業アンケート回答画面プレビューT2-5-9 ハラスメント防止委員会 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/compliance/harassment.html T2-5-7 工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 J4-1-7 CAMPUS DIARY 芝浦工業大学 https://www.shibaura-it.ac.jp/
-----	--	---	---	--	--

3	学習・教育到達目標の達成				
3.1	【学習・教育到達目標の達成】 プログラムは、各科目の到達目標に対する達成度をシラバス等に記載の評価方法と評価基準で評価し、かつ、全修了生が修了時点ですべての学習・教育到達目標を達成したことを点検・確認していること。この達成度評価には、他のプログラム(他の学科や他の高等教育機関)で履修生が修得した単位についての認定も含む。	◎	学修・教育到達目標に対する主たる科目の達成度評価の実施状況を根拠資料として示す。シラバスに定められた評価方法と基準に基づき、科目ごとの到達目標に対する達成度を示している。総合的な達成度の評価として国際的な評価法である GPA 並びに達成表を用いている。シラバスには、科目ごとの達成目標、評価方法と評価基準、対応する学修・教育到達目標が明記されており、それに従って評価されている。全てのシラバスは大学 Web ページの「芝浦工業大学シラバス検索システム」から参照することができる。 学修・教育到達目標ごとに設定された科目を履修することにより、各年度・各人ごとに JABEE 達成表を作成し、学生はこれを S*gsotにより個々に確認・点検できる。また学生の個人面談では成績通知書と JABEE 達成表を持参の上、実施している。達成度を総合的に評価する方法と評価基準に関して、2015 年度学科規則に明文化すると共に、学科 Web ページでも公開し、簡便に評価が行えるようになった。 卒業研究に関しては、概要を工学部土木工学科卒業研究概要集として毎年刊行し公表しており、その成績評価についてはルーブリックにもとづいた評価を実施している。 他のプログラムでの履修生の単位については、「工学部学外単位等認定制度規程」に基づき、「他大学等教育機関」で単位を取得した場合、それが本学における教育上有益と認められるときには、60 単位（2015 年度までは 30 単位）を限度に本学の単位として認定される。また本学入学前に「他大学等教育機関」で取得した単位は、在籍中に取得した単位とは別に 60 単位（2015 年度までは 30 単位）を限度に認定を受けることができる。上記規程に加え、学外他学部、他学科、編入前に取得した単位の認定方法を学科で定めている。単位認定は工学部教務委員会が行っている。共通・教養科目については基礎・教養科目群の担当教員へ、専門科目については各学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終単位認定を行った後に教授会で承認を得る。また、TOEIC など英語検定試験成績による学外単位認定の実績もあり、教務委員会で審議の後、教授会に報告されている。	科目の追加・削除に伴い、添付資料 T2-1-1 の変更を実施 JABEE 達成表の更新 シラバスに「達成目標に対する評価対応と割合」の項目が追加され、到達目標に対する評価方法がより明確となった。 2016 年度より、学外単位は 30 単位から 60 単位（大学設置基準で規定されている単位）を上限として本学の単位として認定することになった。	表 2 学修・教育到達目標とその評価方法及び評価基準芝浦工業大学 シラバス検索システム https://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ T2-4-5 S*gsot 画面 JABEE 達成表例T2-4-5a S*gsot 画面(学生閲覧画面) T2-4-5b TALENT_教員閲覧画面 T2-4-5c ScombZ 画面(学生閲覧画面) T2-4-5d ScombZ 教員閲覧画面 T2-4-5e Sit Portfolio(学生閲覧画面) T2-4-6 JABEE 達成表のガソット閲覧人数 T2-4-4 JABEE 学生自身による取得単位チェック表 T2-4-1 成績通知書 T2-4-2 Dean's List 土木工学科 T3-1-1 学科規則 土木工学科 Web ページ https://www.db.shibaura-it.ac.jp/index.html J4-1-8 工学部土木工学科卒業研究概要集 T2-2-1 卒業研究評価表_学修・教育到達目標と行動特性 T3-5-5 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 T3-5-6 芝浦工業大学転部及び転科規程 T3-5-6a 転部及び転科規程運営内規 T3-5-6b 土木工学科転科・転部・編入学・学士入学およびこれに伴う単位認定 T3-2-5 工学部教務委員会内規
3.2	【知識・能力観点から見た修了生の到達度点検】 プログラムは、学習・教育到達目標を達成した全修了生が学習・教育到達目標に含めた知識・能力観点(a)～(i)の内容を獲得していることを、点検・確認していること。	◎	2011 年度入学生から JABEE 試行を実施しており、2014 年度は 66 名、2015 年度は 85 名、2016 年度は 77 名、2017 年度は 87 名、2018 年度は 80 名、2019 年度は 81 名、2020 年度は 108 名、2021年度は87名、2022 年度は107名が修了した。JABEE 達成表により全員目標を達成していることを確認している。表 1、2、3 により、学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応、目標とその評価方法及び評価基準、カリキュラム設計方針の説明がされている。これらによれば、目標と基準 1(2)の(a)～(i)それぞれごとに、専任教員が主たる科目を 2 つ以上担当し、かつ必修となっており、卒業要件を満たせば学修・教育到達目標が達成され、基準 1(2)の(a)～(i)の内容が身につけていることになる。各学生については、それぞれの JABEE 達成表と単位取得状況を示す成績通知書が作成されており、これらによって確認できる。		J4-1-9 JABEE 修了生リスト T2-4-5 S*gsot 画面 JABEE 達成表例T2-4-5a S*gsot 画面(学生閲覧画面) T2-4-5b TALENT_教員閲覧画面 T2-4-5c ScombZ 画面(学生閲覧画面) T2-4-5d ScombZ 教員閲覧画面 T2-4-5e Sit Portfolio(学生閲覧画面) 表 1 学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応表 2 学修・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 表 3 学修・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明 T2-4-1 成績通知書

4	教育改善				
4.1	【内部質保証システムの構成・実施と開示】 プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、基準 1～3 に則してプログラムの教育活動を点検する内部質保証を組織的に実施し、かつ、その実施内容をプログラムに関わる教員に開示していること。この内部質保証の仕組みには、社会の要求や学生の要望に配慮し、かつ、仕組み自体の機能を点検できる機能を含むこと。	◎	学科における教育活動の点検は、JABEE 会議と学科会議において主に実施している。教育活動案件ごとに、①学科教務担当、②クラス担任、③教育プログラム実施担当、④教育改善検討担当、および⑤教員間ネットワークグループ（カリキュラムおよびシラバスの相互点検・改善を担当）にて点検・検討を行い、両会議にて審議をする仕組みとなっている。 工学部における教育活動点検の組織として、①教授会およびその下部委員会、②芝浦工業大学評価委員会および③工学部教育プログラム自己点検委員会が構成されている。具体的な点検活動の仕組みとして、①学生による授業アンケート、②学生による教育評価アンケート、③卒業生・企業、父母からの要望・意見等集約などがあり、これらは学事部で集約し、結果は各学科、教授会にフィードバックされる。 社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みとして、①授業アンケート、②学生による教育評価アンケート、③就職先アンケート、④学年担任制度、⑤キャリアサポート課によるアンケート、⑥ホームカミングデー、⑦父母懇談会があり、これらの仕組みを教育点検に含んでいる。また、合同企業説明会参加企業へアンケートの実施と、外部評価委員会（大学基準協会大学評価）による点検も行われている。 当該プログラムに関わる教員は、教育点検の仕組みを構成する会議や委員会の議事録を学内端末等によって随時閲覧することができる。工学部において関係するのは教授会であり、学科では学科会議と JABEE 会議議事録である。	教育活動の点検・改善活動において、土木工学科の分野ごとに形成される教員間ネットワークを構成している。これに従来よりある分野横断型で審議する教育プログラム実施担当および教育改善検討担当、更にプログラムに関わる全教員が参加する学科会議および JABEE 会議を併せ 3 つの段階とすることにより、より繊細かつ総括的、実効的な教育活動点検・改善システムを構築した。 2018 年度から共通科目（数理科目・人文科目・英語科目）の教員が 5 名土木工学科に分属された。これにより土木工学分野以外の技術者として必要な共通科目の教育の強化だけでなく、学科会議や JABEE 会議などを通じて情報共有することにより、特に共通科目を受講することの多い学部低学年に対する教育活動の点検、改善の強化が可能となった。	T3-1-1 学科規則 T3-1-2 学科会議議事録（JABEE 会議議事録統合） T3-1-3 教員間カリキュラム検討ネットワーク議事録T3-3-1 工学部の PDCA サイクル 芝浦工業大学 大学基礎データ（自己点検評価） https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/inspection.html T2-4-7 授業アンケート 概要 T2-4-7a 資料 1_授業アンケート 2018-2019（前期のみ） T2-4-7b 資料 2,3_授業アンケート 2018-2019_データシートT2-4-7c 資料 4_9 科目の時系列分析 T2-4-7d 資料 5_自己評価授業アンケートの実施について T2-4-7e 資料 6_自己評価授業アンケート実施に伴う学生の学びの振り返りの徹底について T2-4-7f 資料 7_学生による自己評価授業アンケート(教員ハンドブック 2020) T2-4-7g 資料 8_自己評価授業アンケート回答画面プレビューT2-4-8 卒業生へのアンケート結果の評価 T2-4-8a 卒業時アンケート T2-4-8b 卒業時アンケート 論文 1 T2-4-8c 卒業時アンケート 論文 2 T3-3-6 卒業生および父母からの要望・意見等集約 T2-5-5 土木工学科新 3 年生進路希望調査と面談予定表 T2-5-5a 2019_3 年生ガイダンス資料 T2-5-5b 2019_3 年生向け企業研究会 T2-5-7 工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 T3-3-7 キャリアサポート課によるアンケート T3-3-8 ホームカミングデー T2-3-4 父母懇談会プログラムおよび実施報告 T3-3-9 外部評価委員会（大学基準協会大学評価）による点検
4.2	【継続的改善】 プログラムは、教育点検の結果に基づいて教育活動を継続的に改善する仕組みを持ち、それに関する活動を行っていること。	◎	プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みとして、工学部における①工学部教授会、②工学部学群・学科主任会議（2018 年度までは工学部学群学科主任・科目代表者会議）、③工学部長室（旧・自己点検対応委員会）、④工学部教務委員会、および学科における⑤学科会議、⑥JABEE 会議と⑧教員間ネットワークがある。 各会議や委員会から要請や案内が行われ、学科の活動として取り上げるほか、学科として自主的に点検・改善活動を行っている。内容は以下の項目が挙げられる。①FD・SD 活動、②カリキュラム改善、③教育手段改善、④ディプロマポリシー／カリキュラムポリシー／アドミッションポリシーの明確化、⑤新入生導入科目の改善、⑥学修状況の把握・分析、⑦JABEE 達成表による中間・修了時点での達成度評価、⑧ループリック試行による教育プログラム PDCA サイクル改善などである。		T3-1-1 学科規則 T3-3-1 工学部の PDCA サイクル T3-1-2 学科会議議事録（JABEE 会議議事録統合） T3-2-4 工学部教育プログラム自己点検委員会要領 T3-3-2 工学部総括自己点検報告書 T3-3-3 シラバスチェック表 T3-3-4 工学部から各学科・科目へのフィードバックと対応について

課題③遠隔授業の実施

DX を活用した新たな授業に関する取り組み(Zoom によるオンライン授業やビデオ配信によるオンデマンド授業は、ここでの記載内容には含まれません)

実施時期	取り組み内容
2022年度後期	土木総合講義にて、JR四国と香川大学と本学とのPBL授業内で、本学3年生と香川大3年生のリモートPBLと、対面とリモートでJR四国社員への発表会を実施.

対象時期：前回（2022年度）報告後から2023 年度前期終了まで